
いくじなし

もこちゃん。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
いくじなし

【Nコード】
N5956Y

【作者名】
もこちゃん。

【あらすじ】
星空文庫にも投稿しました。

（前書き）

慣れ親しんだ幼馴染との関係。必要なのはちょっとした勇気。

「小説を書きたいんだが」

俺は言った。「何も書くネタが思い浮かばんのだよ」

「なんでもいいから書けばいいじゃない」

幼馴染のユミが言った。

「なんでもいいからつつつてもな。ほんとに書くものがないときは何も書けないものなんだよ。なんかいいネタでもあればいいんだが」

小説を書きたいのに、書きたいものがないというのは考えてみればおかしい話かもしれない。俺は小説が書きたいのではなく、物書きというステータスがほしいだけなのだろうか。

「それってほんとに書きたくないんじゃない？」

いたいところ突いてくる。というかさっき俺が考えたことと同じ。

「そう言われると微妙なんだけど。たぶん小説って、表現欲だけで書くものじゃないんだよ。物書きというスタイルのもつ雰囲気になれるというか」

「作家って小説書くのが好きな人になる仕事じゃないの？ 書くことが好きでもなくせに作家になったってシンドイだけだと思うな」

うぐっ……やっぱりそうだろうか。

「正一はさ、なんで作家になろうと思ったの？」

ユミには何度か俺の夢は作家だと話してきた。

「いや・・・なんとなく、だけど。」

「なんとなくかい」 ユミは時々シラフで突っ込みを入れる。

「しょうがないだろ、理由なんかないんだから。それより書くことねーかなー」

「恋愛モノとかは？」

「思いつかねえし」 恋愛経験ゼロの俺には恋愛小説はちとハードルが高い。

「じ…実体験とか書き起こしてみればいいんじゃない？」

「付き合ったことないからムリ」

「そ、そーなんだ・・・」

なぜか歯切れ悪くなるユミ。

「じゃ、じゃあさ、しょーいち、ためしに私と付き合ってみない？」

「え…？」

一瞬、脳がフリーズした。

「や…小説書くためだよ、小説。参考になるかと思って…」

「ばーか、なに言ってるんだよ。俺がお前と付き合うわけないだろ」

「そつ…そうだよ。なにいつてんだろ私」

…二人の間を沈黙が支配した。5秒ほどだったのだろうが、その10倍は時が流れたように感じた。

テンパッて突っぱねてしまった。やっちゃったかも、これ。もしかして、ユミ、告白してくれたのか？

「ま、まあ」

先に口を開いたのは俺だ。

「幼馴染との友情みたいな？　のがテーマの小説はありかもしれないな」

チキンだぜ…われながら。

「それなら書けるしな。早速執筆に取り掛かるぜ」

「うん…がんばって」

ユミは悲しみとも不満ともつかない顔で言った。

こーやってチャンスを逃し続けるんだなあ、俺みたいな草食系野郎は…。

机に座り、幼馴染に背を向けて、俺は静かに溜息をこぼした。

（後書き）

一度も小説を書き上げたことがなかったので、短くてもいいからと根性と意地で最後まで書きました（笑

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5956y/>

いくじなし

2011年11月18日05時28分発行